

# 尾信金

## 次ぎ進出 エリア拡大

【名古屋】半田信用月、それぞれ常滑支店金庫(愛知県、本美勝を新設開店。常滑市内久理事長)と西尾信用に初進出した。隣接地域から営業エリアを拡大(愛知県、近藤実理城から営業エリアを拡大)は2020年12月、業容拡大を目指す。

常滑市は中部国際空港があるほか、その周辺に国際会議場や大型商業施設が並ぶ。人口は過去10年で約4千人増え、20年11月末で約5万9千人(約2万5千世帯)。同市の工業出荷額も増加し、19年は約1900億円。

半田信金は20年12月7日、24年ぶりの新設常滑支店を新設開店した。丸テーブルやカウンター型テーブルでサロンのようなくつろげる雰囲気に。本部専門部署と直接相談できるウェブ窓口も導入し

開設前には、同市に對して半田信金が約30万円分のおもちゃ、西尾信金は300万円を寄贈。また、西尾信金は常滑商工会議所にも100万円寄付した。

船木社長(右)の案内で工場を見学する青梅信金の職員ら(20年12月8日、フナキ)



青梅信用金庫(東京都、平岡治房理事長)は2021年度から、内閣府が推奨する「経営デザインシート」を活用した事業性評価を導入し、取引先へのフィードバックを全店で本格化する。

青梅信用金庫(東京都、平岡治房理事長)は2021年度から、内閣府が推奨する「経営デザインシート」を活用した事業性評価を導入し、取引先へのフィードバックを全店で本格化する。同信金は独自の目利き能力向上研修で、事業性評価のノウハウを蓄えてきた。過去からの実績を重視するこれまでの事業性評価では「企業の強みだけでなく弱みも記載するため取り先にフィードバックしにくい」(営業推進部)のが課題だった。このため「経営デザインシート」を導入。同シートは「将来を構想するための思考補助ツール」(内閣府知的財産戦略推進事務局)の現状を踏まえて長期ビジョンを計画するもの。これまでネックだった「自社の強みと弱み」はヒアリングして経営者自身に語ってもらう、自己分析をシートに記入するためフィードバックしやすい。

東京都よろず支援拠点の協力のもと試行的に、20年12月8日に羽村支店、15日に本店でも事業性評価研修を実施。8日は早野博之羽村支店長らが精密板金事業のフナキを訪問。支援拠点の橋爪直幸コーディネーター(中小企業診断士)と同行した。「コロナ禍で売り上げの大きい航空機関連需要が減少した」(船木貞裕社長)が、技術力や人材の豊富な自社の強み、設備投資の意欲を語った。荒井修平・羽村支店係長

信金中金 承継支援を一括で 11団体と連携組織

信金中央金庫は1月4日、信金キャピタル

は「出入りしているが初めて聞く話もあった。ヒアリングの仕方も参考になる」と。結果は年内にフィードバックした。

や外部の11団体と連携し、信用金庫取引先の中小企業へ事業承継支援サービスを包括的に提供する枠組みの運用を始めた。

M&A(合併・買収)仲介のトランピ、税務相談に乗るミロク情報サービス、高野総合会計事務所、中小企業基盤整備機構など「しんきん事業承継コンソーシアム」を構築。信金中金が窓口になり、企業へ最適な連携先を紹介する。複数機関が協力して支援することも想定する。

### 青梅信金

## デザインシート活用 事業性評価をフィードバック

# 信託



## ウェ

に注力する。契約する信金には、過去の経済危機時のシナリオに沿ってストレステストを実施できる仕組みを提

ローバル信託」は、17年に提供を始めた。外国の株式や債券へ分散投資できるファンドを10本用意している。い

バンクによる「大阪府下メインバンク調査」(20年12月)では、「10月末時点で前回調査から1-4社増加し

管理手数料を思わせる。2年以上取引がないことなどが条件。振り込め詐欺やマネーロンダリングなどでの不正